



八戸ブックセンター企画事業報告書 (令和元年度版)

まちづくり文化スポーツ部
まちづくり文化推進室八戸ブックセンター

目次

基本計画書（施設の位置づけ）	1
基本計画書（施設運営の基本方針）	2
方針1 本を「読む人」を増やす	
(1) 本のまち読書会	3
(2) ブック・ドリンクス	4
(3) アカデミックトーク	5
(4) セレクト・ブックストア（本の陳列・販売）	6
(5) 読書会ルームの活用	7
方針2 本を「書く人」を増やす	
(1) 執筆・出版ワークショップ	8
(2) カンヅメブースの活用	9
方針3 本で「まち」を盛り上げる	
(1) ギャラリー展示	10
(2) パワープッシュ作家	12
(3) 本のまち八戸ブックフェス	13
(4) ブックサテライト増殖プロジェクト （フリーペーパーの発行）	14
(5) 「本のまち八戸」各種事業との連携	15
参考データ① 令和元年度八戸ブックセンター決算額	16
参考データ② 来館者数、販売冊数の推移	17
参考データ③ 販売冊数、販売額の推移	
参考データ④ 視察受入状況	18
参考データ⑤ アンケート集計結果	19

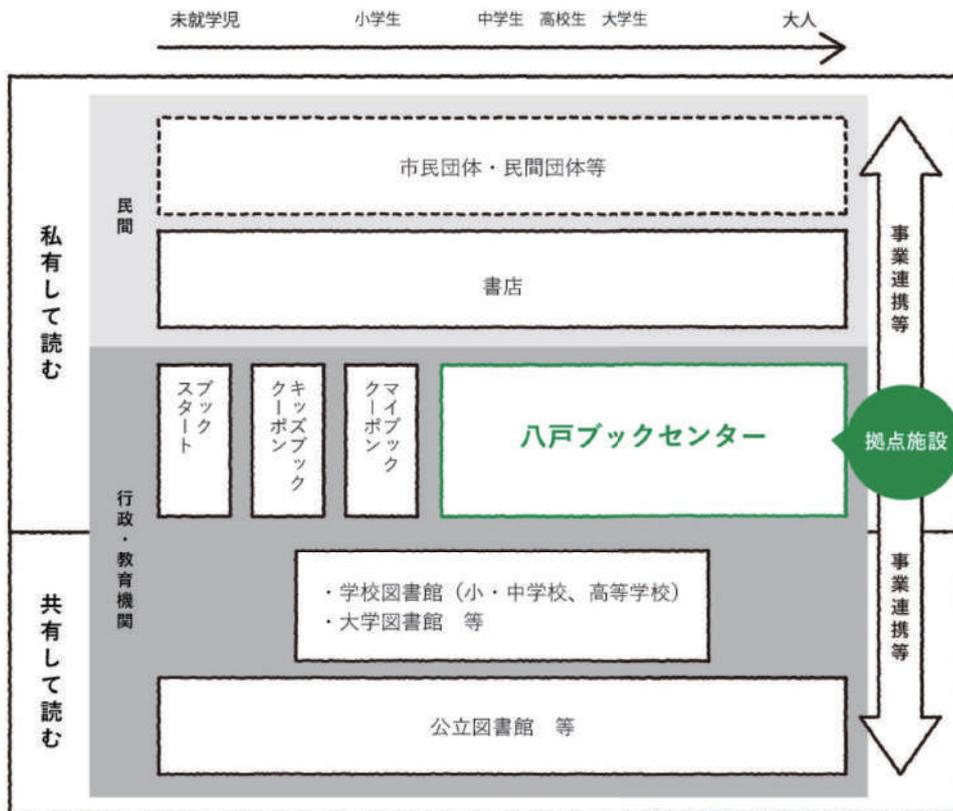
八戸ブックセンター基本計画書（一部抜粋）

○施設の位置づけ

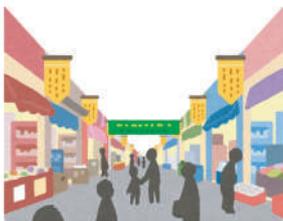
八戸ブックセンターは、政策公約に掲げる「本のまち八戸」を目指す取り組みの、乳幼児（生後90日～1歳未満）とその保護者を対象とした「ブックスタート事業」、小学生を対象とした「マイブック推進事業」、また、3歳児とその保護者向けに新たに創設した「“読み聞かせ”キッズブック事業」に続く、大人を主な対象とした施設です。また、八戸ブックセンターは中心市街地の活性化に寄与するとともに、市民の豊かな心を育み、本のある暮らしが当たり前となる文化の薫り高いまちを目指すため、本と出会う新たな機会の創出、本を通じた市民交流及びまちづくりの拠点施設としても位置づけています。

◎「本のまち八戸」の概念図

サービスの対象者



◎まちづくりにおける八戸ブックセンターの効果



八戸市 / 中心街



生活の質を高める魅力的な都市機能として、本の購入に止まらない、観光、移住、企業誘致などへの波及効果が期待される。



八戸ブックセンター



「はっち」、「マチニワ」、新美術館、図書館などの公共施設や民間書店などの事業連携により、街の回遊性を高める。



はっち・美術館など

○施設運営の基本方針

- 方針1 本を「読む人」を増やす
- 方針2 本を「書く人」を増やす
- 方針3 本で「まち」を盛り上げる

八戸に「本好き」を増やし、八戸を「本のまち」にするための、あたらしい「本のある暮らしの拠点」というコンセプトに基づき、3つの基本方針を定め、それに則った施策を実行していきます。

方針1 本を「読む人」を増やす

「本好き」はまず、本を「読む人」です。本を読むことは、日々の生活を楽しくする、とても豊かなことですが、それが習慣になるまでは、少し時間がかかることでもあります。八戸ブックセンターは、本を「読む人」を増やすために、これまで出会う機会が少なかった本が身近にある環境をつくと同時に、それを手に取りたいくなるような工夫のある陳列や空間設計、読み始めるきっかけとなるようなイベントの開催などを行います。

方針2 本を「書く人」を増やす

「本好き」が高じて、本を「書く人」になることもあります。本を「書く人」が多いまちは、豊かな想像力や思考力にあふれ、魅力的なまちとなることでしょう。当市は、三浦哲郎という偉大な作家を生んだ土地でもあります。八戸ブックセンターは、本を「書く人」を増やすために、執筆するためのブースを備え、執筆や出版の相談窓口やワークショップの開催などを行います。

方針3 本で「まち」を盛り上げる

本はひとりで読むものであると同時に、そこから得た知識や情報、感情や思考などを共有することで、より深く楽しむことができるものでもあります。八戸ブックセンターは、本で「まち」を盛り上げるために、本を介したコミュニケーションを生み出す様々な施策を行います。

この基本方針に則り、子どもから大人までが本と出会い、本に親しむ環境づくりに取り組んでいく中で、八戸ブックセンターは主に大人を対象とし、市の直営による運営としますが、民間書店や図書館と適切な機能分担と連携を図りながら、これまで手に触れる機会が少なかった本に出会える場の創出という、本に関する新たな公共サービスを提供することとしています。

方針 1 本を「読む人」を増やす

(1) 本のまち読書会

ブックセンターが主催する読書会で、様々なテーマ本などを設定するほか、時にゲストを招き開催。テーマ本への理解だけでなく、参加者間の本を通じた交流も深め、読んでいない本や新たなジャンルへの興味を喚起する機会となっています。

【実施状況】

- ・令和元年度は、計6回開催し、延べ88名が参加。
- ・令和元年10月に、市制施行90周年記念事業として、中島京子氏（直木賞受賞作家）、梯久美子氏（ノンフィクション作家）をゲストに招き、トークイベント「八戸人の必読書『かたづの!』と根城の女大名清心尼」を開催。（史跡根城の広場を会場とし、約250名が参加）

【参加者の声（一部抜粋）】

- ・初めて海外文学に触れ、興味の幅が広がった。（読書会「韓流入門」参加者）
- ・読書会の方法などが理解でき、自分でも読書会を開催したい。（読書会「How To 読書会」参加者）
- ・朗読の基本を学べ、他の人の朗読を聞くこともでき、今後の活動の参考になった。（市読連共催「はじめての朗読教室」参加者）



読書会「How to 読書会～読書会のすすめ～」



「はじめての朗読教室・朗読の基本のキを学ぶ」



読書会「読書で短歌～読んで詠む～」



市制施行90周年事業トークイベント
「八戸人の必読書『かたづの!』と根城の女大名清心尼」

【令和2年度の取組】

- ・毎回、一定数の参加者があり好評を得ていることから、今後も様々なテーマを設定し、ゲストを招きながら、ブックセンター主催の読書会を開催する。

(2) ブック・ドリンクス

お薦めの本を持ち寄るなど、ドリンクを飲みながら本について語り合う交流会。「本のまち読書会」と違い、テーマを設定せず予約申込も不要としており、気軽に参加してもらえことから、本好きが集う場所となっています。また、紹介したい本のコメントなどを作成して参加するなど、常連の参加者も増えてきています。

【実施状況】

- ・毎月最終金曜日の夕方に開催しており、令和元年度は、延べ132名が参加。
- ・令和元年11月には、書評家の豊崎由美氏をゲストに招き、豊崎氏お薦めの本を紹介してもらうブックドリンクススペシャル企画を実施。(約20名が参加)

【参加者の声 (一部抜粋)】

- ・新たなジャンルの本に興味を持てた。
- ・参加している人の話を聞いているだけでも面白く、知り合いも出来た。
- ・豊崎さんのイベントで書評家としての話を聞き、本の読み方など新たな発見があった。



ブックドリンクスの様子



ブックドリンクススペシャル

「続々」フーテンのトヨさん」が八戸にやってくる！」
対面販売



ブックドリンクススペシャル
「続々」フーテンのトヨさん」が八戸にやってくる！」
豊崎由美氏トークイベント

【令和2年度の取組】

- ・毎月最終金曜日の夕方に定期開催
- ・令和2年11月頃に、書評家の豊崎由美氏を招き、スペシャル企画を実施予定

(3) アカデミックトーク

市内外の大学や専門学校などの教育機関のほか、美術館や博物館などの文化施設を中心に講師を招き、本を軸にした知的好奇心を刺激するアカデミックなトークイベント。

【実施状況】

- ・令和元年度は、計17回開催し、述べ375名が参加。
- ・市内の大学、専門学校から講師を招いての開催のほか、県内美術館と連携し、企画展に合わせたイベントの開催、本を軸にした外国語講座形式での開催など多彩なイベントを実施。

【参加者の声（一部抜粋）】

- ・絵本をきっかけにフランス語を学べることができ楽しかった。（「パバールで学ぶフランス語」参加者）
- ・八戸市民として羽仁もと子のことを深く知ることができ良かった。（「子どものための建築と空間」関連企画「羽仁もと子が築いた生き方の教育」参加者）



「寺山修司 発想の源泉」（県近代文学館連携）
講師：県近代文学館 伊藤文一氏



「はちのへ まちをよくする作戦会議」（弘前大サテライト連携）
講師：八戸学院大学 田中哲氏



「子どものための建築と空間展」関連企画
羽仁もと子が築いた生き方の教育（県立美術館連携）
講師：自由学園明日館 福田竜氏、千葉学園 岡本潤子氏
県立美術館 板倉容子氏



「パバールで学ぶフランス語」
講師：吉田オレリー氏

【令和2年度の取組】

- ・毎回、一定数の参加者があり好評を得ていることから、今後も様々なテーマを設定し、教育機関や文化施設などと連携して実施する。

(4) セレクト・ブックストア (本の陳列・販売)

市内民間書店では出会わない本（主に、海外文学や人文・社会科学、自然科学、芸術などの分野）を中心に、専門家向けではなく、一般の方も手に取りやすい内容の本を主として選書し、テーマ別の陳列を行っています。本への興味関心を高め、本との偶然の出会いを通し、広い世界や多様なジャンルへの知的好奇心や探究心の醸成に寄与するようなセレクト・ブックストアを目指しています。

【令和元年度に取り上げたテーマ、フェア棚など】

- ・八戸にゆかりのある人などに選書してもらう「ひと棚」
- ・八戸出身作家や八戸の人が書いた本の棚
- ・市内や県内の文化施設（美術館、博物館、映画館フォーラム八戸など）やイベントとのコラボによる棚
- ・マイブুকクーポン事業との連携による「こどもブックセンター」棚
- ・書評家・豊崎由美氏セレクト「フーテンのトヨさん」棚 など

【来館者の声】

館内アンケートに寄せられる声として、「普段出会えない本に出会うことができた」、「テーマによる陳列が面白い」など、好印象の意見が多く、特定のジャンルや作家など、取り扱ってほしい本の希望なども寄せられるなど、興味をもって閲覧していただいている。



豊崎由美氏セレクト「フーテンのトヨさん」棚



こどもブックセンター



ひと棚（太田泰友氏ギャラリー展「背を見て育つ」記念）



フォーラム八戸紹介棚

【令和2年度の取組】

- ・ブックセンターのコンセプトに則り、本との偶然の出会いを創出できるよう、選書・陳列を行う。
- ・市内外の美術館や博物館などの文化施設などと連携を図り、その施設・事業との相乗効果が得られるような選書・陳列を行う。

(5) 読書会ルームの活用

読書会ルームについては、市内の読書団体などへの貸出のほか、ブックセンター主催の企画事業にも活用しています。

【読書会ルーム利用状況】

期間	貸館		自主事業	
	計	月平均	計	月平均
平成 28 年度 (H28.12 ~ H29.3)	20 件	5.0 件	5 件	1.3 件
平成 29 年度 (H29.4 ~ H30.3)	50 件	4.2 件	78 件	6.5 件
平成 30 年度 (H30.4 ~ H31.3)	57 件	4.8 件	69 件	5.8 件
令和元年度 (H31.4 ~ R1.3)	73 件	6.1 件	42 件	3.5 件

【現在の活用状況】

- ・市内の読書団体へ読書会用に貸し出しているほか、朗読会など、発表の場としても活用。
- ・貸館、自主事業で利用していないときは、読書スペースとして開放している。



トークイベントでの利用時



読書スペースとしての利用時

【令和 2 年度の取組】

- ・今後も、読書団体などによる読書会の会場としてご利用いただくとともに、ブックセンター主催の企画事業（読書会、ワークショップ、トークイベントなど）の実施に活用していく。
- ・利用していない時間帯は、来館者の読書スペースとして開放。

方針2 本を「書く人」を増やす

(1) 執筆・出版ワークショップ

小説や自分史の書き方、電子書籍の作り方など、執筆や出版に関するワークショップ。
執筆や出版についての知識を深めることを通し、また、同じ「書く」という志を持つ方々がワークショップを機会に集うことが刺激となり、本を書くきっかけづくりとなっています。

【実施状況】

講師を招き、下記内容で計3回開催し、延べ28名が参加。

- 小説の書き方に関する読書会「フィクション文学の教室 in 八戸」（講師：小説家 藤谷治氏）
- トークイベント「小説は君より大きく、君は小説より大きい」（講師：小説家 藤谷治氏）
- 中心街を歩いて日記を執筆、発表を行うワークショップ（講師：作家 滝口悠生氏）

フリーペーパー「ほんのわ」を発行。自費出版をするうえで手助けとなる市内の印刷所やデザイン会社、作品の発表のしかたなどを掲載



藤谷治氏「フィクション文学の教室 in 八戸」トークイベント



フリーペーパー「ほんのわ2019」

【令和2年度の取組】

ショートショート小説家をゲストに招き、トークイベント・ワークショップなどを開催予定。

(2) カンヅメブースの活用

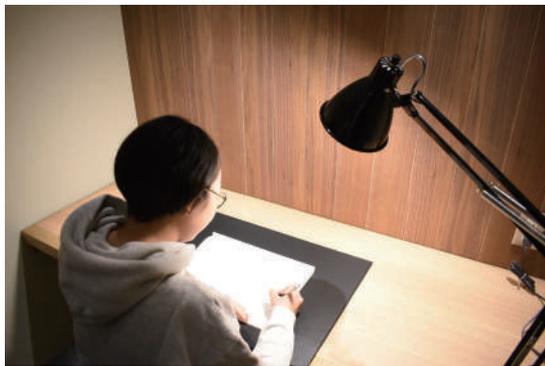
カンヅメブースについては、本などを執筆したい人向けに貸出しており、利用するには、活動内容などを教えていただき、「市民作家登録」をしていただいています。

【市民作家登録者、カンヅメブース利用状況】

期間	市民作家登録者		カンヅメブース利用件数	
	登録者数	(累計)	計	月平均
平成 28 年度 (H28.12 ~ H29.3)	77 人	77 人	65 件	16.3 件
平成 29 年度 (H29.4 ~ H30.3)	66 人	143 人	174 件	14.5 件
平成 30 年度 (H30.4 ~ H31.3)	51 人	194 人	153 件	12.8 件
令和元年度 (H31.4 ~ R1.3)	41 人	235 人	204 件	17.0 件

【現在の活用状況】

- ・市民作家登録をするだけでなく、出版に向けた相談で来館されるケースも出てきている。
- ・カンヅメブースを利用して書いた本が出版されたケースも出てきている。
- ・市民が書いた本については、センター内で紹介している。



カンヅメブース



八戸市民が書いた本の紹介コーナー

方針3 本で「まち」を盛り上げる

(1) ギャラリー展示

八戸ブックセンター主催、もしくは関係機関との共催による企画展示。

本や本にまつわる出来事の奥深さや面白さを多角的な視点から伝えることを通して、多様な人々の関心を喚起し、まちを盛り上げていきます。

【開催した展示】

期間	展示名	内容など
H31.2.9～H31.4.21	太田泰友ブックアート展 背を見て育つ	<ul style="list-style-type: none"> ・太田泰友（ブックアーティスト）のブックアート作品の展示を通して、本の新しい可能性を探る展示。 ・同氏によるトークイベントも実施。
H31.4.27～R1.7.21	ブックデザイナーの仕様書展	<ul style="list-style-type: none"> ・普段見ることが出来ない、ブックデザイナー（町口覚、佐藤亜沙美、大西隆介）が本をつくる際の「仕様書」と出来上がった本などを展示。 ・関連トークイベントも実施。
R1.7.31～R1.11.4	紙から本ができるまで展 2019	<ul style="list-style-type: none"> ・三菱製紙八戸工場で作られた紙を使用した写真集を実際に出版し、その本が出来るまでの過程を紹介した展示。 ・八戸出身の写真家中居裕恭と森山大道の写真集を刊行。
R12.21～R2.3.8	柴崎友香 × 滝口悠生 アイオワ／八戸 ～作家が滞在するということ～	<ul style="list-style-type: none"> ・米国のアイオワ大学による海外作家の滞在プログラム企画を参考に、芥川賞作家を八戸に招聘して滞在してもらう企画の関連展示。 ・期間中には、作家と交流できる機会としてトークイベントのほか、小学校を訪問しての特別授業、高校生との文学ワークショップ、横丁での1日店主体験、散歩＆日記執筆ワークショップなどを実施。
R2.3.28～R2.8.23	物語が本になるまでの物語	<ul style="list-style-type: none"> ・本の装幀から製本までを自身で行っている新島龍彦の作品や作業工程などの展示 ・展示期間最終日にトークイベントを実施予定。

【令和2年度の取組】

- ①令和2年9月下旬～ 八戸市や圏域内の方、これまでブックセンターの企画に協力いただいた方などに旅をテーマとした本を選書いただき展示する、「本で旅をしよう。」
- ②令和3年1月～ 現在活躍されているブックデザイナーがつくる本の仕様書などを展示する「ブックデザイナーの仕様書展」

【ギャラリー展示写真】



太田泰友ブックアート展「背を見て育つ」



ブックデザイナーの仕様書展



紙から本ができるまで展2019



紙から本ができるまで展2019
(本企画で出版した写真集『DUO 中居裕恭 森山大道』)



柴崎友香 × 滝口悠生
アイオワ / 八戸 ～作家が滞在するということ～



アイオワ / 八戸 ～作家が滞在するということ～
関連特別授業「小学生と語らう」



物語が本になるまでの物語

(2) パワープッシュ作家

- ・特定の作家を「パワープッシュ作家」に選び、刊行記念トークイベントを開催するほか、市内書店とも連携したフェアなどを開催するもの。
- ・八戸に関係する本でパワープッシュを行ったことにより、市民が本に興味を持ってもらうきっかけづくりになっています。

【実施状況】（開催順）

(1) 「南極ではたらく」（著者：渡貫淳子〔八戸出身、南極観測隊料理隊員〕）

- ・刊行記念トークイベント、「悪魔のおにぎり」調理体験イベントを開催。

(2) 「ぼっちとぼっち」（著者：まつばらのりこ〔八戸出身、在英絵本作家〕）

- ・邦訳版出版記念として、トークイベント、子ども向けワークショップを開催。

(3) 『『ついやってしまう』体験のつくりかた』

（著者：玉樹真一郎〔八戸出身、Uターン在住、八戸学院大学特任教授〕）

- ・刊行記念トークイベント、関連講義イベントなどを開催

(4) 「山の上のランチタイム」（著者：高森美由紀〔三戸在住作家〕）

- ・刊行記念ラジオ出演トークイベント、食事イベント、読書会などを開催

(5) 芥川賞・直木賞発表生放送パブリックビューイング

- ・八戸出身作家（木村友祐、呉勝浩）の両賞候補作同時ノミネートを記念したイベントを開催



玉樹真一郎氏 新刊刊行記念トークイベント



高森美由紀氏 新刊刊行記念イベント

「山の上のランチタイム」に登場した食事を楽しむイベント

【令和2年度の取組】

- ・八戸在住の滝尻善英氏新刊「糠部三十三札所」刊行記念イベントを実施。（令和2年8月）
- ・その他、八戸にゆかりのある作家、八戸に関連する本などについて、読書会やトークイベントなどで取りあげていく。

(3) 本のまち八戸ブックフェス

- ・年に一度の行事として、様々な団体と連携し、一箱古本市やトークイベントなど、本に関する様々な企画を、一定期間集中的に開催します。
- ・古本市のほか、市内書店ブースなども設置しており、出店者とお客さんとの交流が図られています。

【実施状況】開催日 令和元年9月21日(土)

・ブックセンターとはっち、マチニワを主会場に実施。

- ①一般応募型による一箱古本市(28店舗)
- ②市内の新刊・古書店の出店(4店舗)
- ③市内、全国の出版社の出店(11社)
- ④飲食ブース(9店舗)
- ⑤市内書店の特徴的な書店員、東京の書店店主によるトークイベント
- ⑥絵本展、絵本読み聞かせ会
- ⑦学校図書館の除籍本無料配布
- ⑧移動図書館車の展示
- ⑨全国のフリーペーパーの展示
- ⑩オリジナルノートづくりワークショップ
- ⑪子ども向けスタンプラリー



一箱古本市、書店、飲食ブースなど(会場:マチニワ)



一箱古本市、書店、飲食ブースなど(会場:はっち)



市内書店員トークイベント(会場:はっち)



子ども向けスタンプラリー、体験コーナー

【令和2年度の取組】

- ・ホコテン開催日の9月27日(日)に、マチニワ・はっち・ブックセンターを会場に実施予定。
(令和2年度は新型コロナウイルス感染防止対策として、規模を縮小して開催)

(4) ブックサテライト増殖プロジェクト（フリーペーパーの発行）

- ・市内の小売店や飲食店、公共施設に呼びかけ、「ブックサテライト」として小さな本箱を設置し、市内全域に広がるさまざまな本棚スポットをめぐる楽しさを創出します。
- ・「ブックサテライト」のほか、本のまち八戸について紹介するフリーペーパー「ほんのわ」を発行。

【実施状況】

- ・ブックサテライトとして、下記の施設が参加している。
 - ・ドトールコーヒーショップ八戸十三日町店
 - ・スターバックスコーヒー（八戸田向店、八戸城下店）
 - ・八戸市水産科学館マリエント
 - ・青い森信用金庫（本店営業部、湊支店、廿三日町支店）
 - ・八戸市博物館
 - ・はちのへまちなかアートラボ Co 部屋
 - ・八戸市立市民病院周産期センター



ドトールコーヒーショップ八戸十三日町店



スターバックス八戸田向店



青い森信用金庫（廿三日町支店）



八戸市立市民病院周産期センター

【令和2年度の取組】

- ・引き続き、市内の小売店や飲食店、公共施設に呼びかけ、ブックサテライトを増殖させる。
- ・今年度内に増えた施設の情報も含めたフリーペーパーを発行する。

(5) 「本のまち八戸」 各種事業との連携

八戸ブックセンターを「本のまち八戸」の拠点施設として位置づけており、各種事業において、担当部署との連携により実施しています。

【実施状況】

①マイブック推進事業（担当部署：教育指導課）

- ・ブックセンターで「おすすめブックリスト」を作成し、マイブッククーポンと一緒に配布。
- ・ブックセンタースタッフが市内小学校へ訪問して行う「出張ブックトーク」を実施。
（平成30年度は10校、令和元年度は19校で実施。）
- ・ブックセンターで本の紹介などのトークイベントを実施

②読み聞かせキッズブック事業（担当部署：子育て支援課）

- ・「本のまち八戸ブックフェス」で行った絵本展に使用する絵本をブックセンターで選定。
- ・クーポンは終了したが、お勧め本リストの作成などを実施。

③図書館事業（担当部署：図書館）

- ・マイブック推進事業での出張ブックトークを図書館職員と一緒に実施。
- ・図書館の市史講座とブックセンターのアカデミックトークを連携実施。
- ・ブックセンターでの企画事業において、入手困難な本について図書館の本を利用。
- ・南郷図書館のイベントにブックセンタースタッフが選者として協力。

④その他（教育機関との連携）

- ・豊崎中学校でのビブリオバトルに関するワークショップを実施。
- ・八戸高専によるブックハンティング（学校図書館の書籍を生徒が選書し購入するもの）をブックセンター内で実施。
- ・八戸高専環境都市建築デザインコース課題研究（図書館設計）で、ワークショップを実施。



出張ブックトーク（小学校）



出張ブックトーク（小学校）



ワークショップ（中学校）



ワークショップ（八戸高専）

(参考データ① 平成31年度(令和元年度) 八戸ブックセンター決算額)

【歳入】

単位：千円

科 目		金 額	
事業に伴う収入	使用料	ブックセンター使用料(ドリンクスタンド分)	491
	国庫支出金	社会資本整備総合交付金	2,039
	寄付金	ブックセンター事業費寄付金	545
	繰入金	地域振興基金繰入金	
	諸収入	電気等使用料	69
		書籍等売上収入	13,843
		その他雑入(社会保険料等)	1,771
小 計		18,758	
一般財源(税等)		76,129	
歳入合計		94,887	

【歳出】

A.選書、企画事業の実施に係るもの

単位：千円

科 目		金 額
人件費	職員3名、嘱託職員3名、臨時職員1名分	36,490
報償費	自主事業謝礼	3,020
旅費	自主事業等旅費	839
需用費	食糧費	180
役務費	通信運搬費等	716
委託料	事業ディレクション業務等	5,089
歳出合計		46,334

B.本の販売等に係るもの

科 目		金 額
役務費	手数料(クレジットカード決済手数料)	182
委託料	書籍等仕入販売返品業務委託料	26,546
	(うち書籍仕入分)	12,301
	(うち販売返品業務等分)	14,245
歳出合計		26,728

C.建物の維持管理及び一般事務経費に係るもの

科 目		金 額
需用費	消耗品費	715
	印刷製本費	396
	光熱水費	976
	修繕料	440
	小 計	2,527
役務費	手数料	21
	火災保険料等	66
	小 計	87
委託料	清掃、廃棄物収集運搬業務	2,131
	その他(ホームページ運用保守業務等)	479
	小 計	2,610
使用料及び賃借料	建物等借上料	15,344
	その他(複写機使用料等)	1,257
	小 計	16,601
歳出合計		21,825

歳出合計A+B+C	94,887
-----------	--------

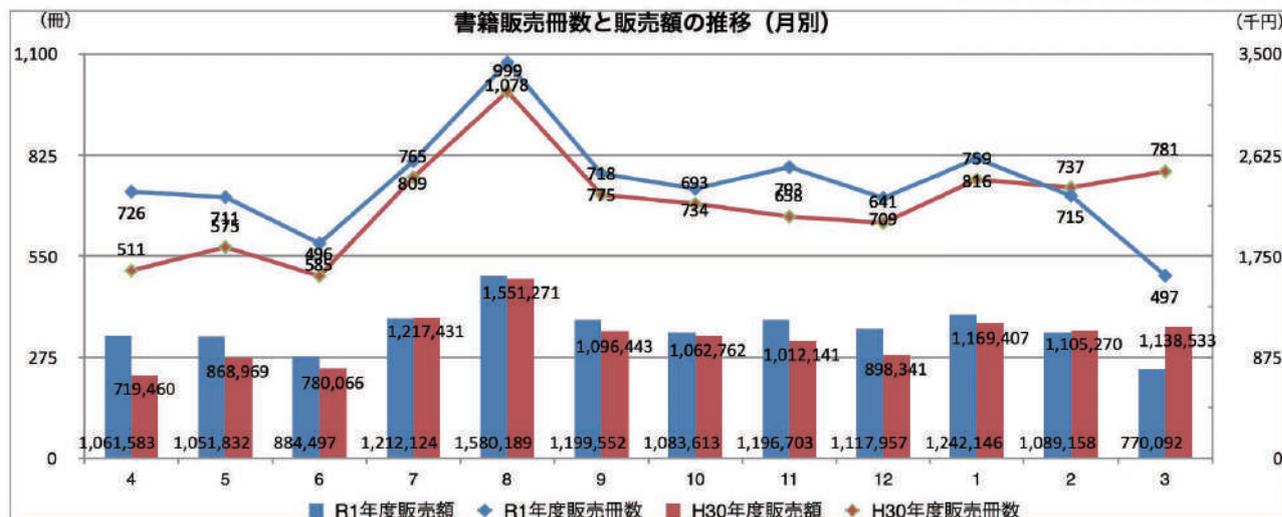
(参考データ②：来館者数の推移)



●来館者数

	累計	月平均	1日平均
平成29年度	114,599人	9,550人	368人
平成30年度	125,983人	10,499人	406人
令和元年度	109,560人	9,130人	355人

(参考データ③：販売冊数、販売額の推移)



●販売冊数

	販売冊数	月平均	1日平均
平成29年度	7,143冊	595冊	23冊
平成30年度	8,333冊	694冊	27冊
令和元年度	8,948冊	746冊	29冊

●販売金額
(書籍のみ)

	販売金額	月平均	1日平均
平成29年度	10,516,785円	876,399円	33,816円
平成30年度	12,620,094円	1,051,675円	40,710円
令和元年度	13,489,446円	1,124,120円	43,655円

(参考データ④：視察受入状況)

【機関別】

区分		件数	人数
議会関係者	市町村区議会議員	33	255
行政関係者	市町村区職員	17	182
	都道府県職員	1	2
	国職員	1	4
教育機関関係者	小学校	5	115
	大学、高等専門学校	14	75
出版編集等関係者	出版社	3	7
	製紙会社	3	32
	その他	2	2
その他（商工会関係、企業、個人等）		25	403
合計		104	1077
(県外計)		91	795

【月別】

	件数	人数
平成31年4月	5	100
令和元年5月	3	38
令和元年6月	10	78
令和元年7月	20	141
令和元年8月	11	94
令和元年9月	5	30
令和元年10月	16	109
令和元年11月	11	197
令和元年12月	8	124
令和2年1月	5	22
令和2年2月	7	141
令和2年3月	3	3
合計	104	1077

(参考データ⑤：アンケート集計結果)

- (1) 実施期間 平成31年4月1日～令和2年 3月31日
(2) 実施場所 八戸ブックセンター内
(3) 回答件数 140件
(4) 結果内容

Q1 年齢

19歳以下	24	17.1%
20代	13	9.3%
30代	19	13.6%
40代	39	27.9%
50代	22	15.7%
60代以上	23	16.4%
未記入	0	0.0%
合計	140	100.0%

Q2 どちらからお越しですか？

市内	39	27.9%
市外	101	72.1%
合計	140	100.0%

【市外】 県内(11)、北海道(5)、東北(13)、関東(25)、近畿(7)、外国(1)、不明(39)

Q2-1 交通手段は？(市内在住)

バス	12	30.8%
鉄道	0	0.0%
自家用車	18	46.2%
徒歩・自転車	9	23.1%
その他	0	0.0%
合計	39	100.0%

Q2-2 勤務先がある場合の勤務先の場所は？(市内在住)

中心街	4	36.4%
郊外	7	63.6%
合計	11	100.0%

Q2-3 滞在期間は？(市外からの来館)

日帰り・通過	23	24.0%
宿泊	73	76.0%
合計	96	100.0%

Q2-4 宿泊先は？(市外からの来館)

中心街	46	62.2%
新幹線八戸駅周辺	8	10.8%
その他	20	27.0%
未記入	0	0.0%
合計	74	100.0%

Q2-5 八戸にお越しの目的は？（複数回答あり）

ビジネス	25	26.3%
観光	28	29.5%
帰省	15	15.8%
ブックセンター	11	11.6%
その他	16	16.8%
合計	95	100.0%

Q3 ブックセンターへお越しいただいたのは何回目ですか？

初めて	96	68.6%
2～3回目	24	17.1%
4回目以上	20	14.3%
合計	140	100.0%

Q4 ブックセンターを何で（どこで）知りましたか？（複数回答あり）

チラシ	5	2.9%
行政情報	27	15.8%
インターネット・SNS等	33	19.3%
新聞記事	13	7.6%
テレビ	7	4.1%
雑誌等	10	5.8%
人づて、口コミ	42	24.6%
その他	33	19.3%
未記入	1	0.6%
合計	171	100.0%

Q5 ブックセンターの雰囲気はいかがですか？

非常に良い	104	74.3%
良い	25	17.9%
普通	3	2.1%
悪い	0	0.0%
とても悪い	1	0.7%
未記入	7	5.0%
合計	140	100.0%

Q6 「市内書店ではあまり並んでいない本を選定」し、市内書店や図書館とは違い、様々な「テーマに沿った陳列」をしています。内容はいかがですか？

非常に良い	96	68.6%
良い	28	20.0%
普通	7	5.0%
悪い	1	0.7%
とても悪い	0	0.0%
未記入	8	5.7%
合計	140	100.0%

【感想・意見】

- ・テーマごとの陳列の仕方が良い。（同様意見 他12件）
- ・普段出会えない本があって良い。（同様意見 他9件）
- ・施設のコンセプト、選書もいいが、スタッフの対応もやわらかく心地がよかった。（同様意見 他8件）
- ・素晴らしい取り組みだと感銘を受けた。（同様意見 他5件）
- ・館内ツアーでいろいろなことを教えてもらえて良かった。（同様意見 他4件）
- ・ゆっくりと本を見ることができると雰囲気でもリラックスできた（同様意見 他3件）
- ・「書く人を増やす」（カンツメブース）の取り組みが良い。（同様意見 他1件）
- ・いつ来ても楽しめる場所だと思う。（同様意見 他1件）
- ・トルコ文学の充実ぶりに驚いた。（同様意見 他1件）
- ・上の方にある本が見づらい。
- ・飲み物を飲みながらゆったりできて大変よい環境。珍しい取り組みなので長く続けて、育てて行ってほしい。
- ・ブックセンターでアルコール類を出すのはいかがなものか。
- ・読書推進に努めていると感じた。
- ・通常の書店より本を身近に感じる。
- ・八戸市共通商品券や図書カードが使用できない。
- ・中国と台湾は分けてほしい。

【希望のテーマ、ジャンル等】

- ・子ども向けの本（同様意見 他4件）
- ・絵本（同様意見 他1件）
- ・映画、映像に関する本
- ・フィクション
- ・自然科学、哲学、数学等の日本語訳でなく原文の本をおいてほしい（同様意見 他1件）
- ・ノンフィクション
- ・ボルタンスキーの特集
- ・アスペルガー症候群に関する本
- ・コーヒーに関する本
- ・工芸に関する本
- ・文学作品
- ・文庫本
- ・ビジネス書
- ・美意識についての本
- ・IT、RPA、micro:bit、Scratch
- ・占いの本
- ・自己啓発の本
- ・雪国に関する本
- ・福祉、ユニバーサルデザインの本
- ・アート関連
- ・地元の文化を扱った本
- ・ファッション関連
- ・SDGs
- ・LGBTについて取り上げた本
- ・フェミニズム
- ・カラオケに関する本
- ・東日本大震災についての本
- ・ワインに関する本
- ・ねこに関する本
- ・歴史書
- ・ヒップホップ、ラップに関するもの
- ・日本文化（茶道等）
- ・理系の専門書
- ・住環境に関する本
- ・歴史上の偉人のまんがによる伝記

Q7 希望する企画事業の内容等（展示、トークイベント、ワークショップなど）

- ・子供も来やすくなるようなワークショップ、子供向けの展示・イベント（同様意見 他2件）
- ・音楽に関する企画・展示（同様意見 他2件）
- ・学生を含む若年層が本と触れる機会となるイベント。（同様意見 他1件）
- ・自然、環境保護に関するイベント（同様意見 他1件）
- ・地元の歴史に関する読書会、八戸の漁業との連携など。
- ・映画館とのコラボによるトーク
- ・ビーズアート、フラワーアート等趣味作りに役立つ本やワークショップ
- ・月の満ち欠けの佐藤正午さんのような、話題になった作家さんのトークイベントなど
- ・朗読会
 - ・寺山修司に関するもの
- ・太宰治に関するもの
 - ・地元の工芸にまつわる企画・展示
- ・ウィキペディアタウン
 - ・ポケモンに関する展示
- ・自分で本を作るときの綴じ方
 - ・八戸出身の芸術家・著名人によるトークイベント
- ・ロボットに関する展示
 - ・かたづのに関するイベント
- ・micro:bit等のプログラミングのワークショップ
 - ・東北出身の芥川賞・直木賞受賞作家の本の朗読会
- ・装丁・活版印刷などのワークショップ
 - ・自動制御カルマン倒立振り子ワークショップ
 - ・デザイン、特殊印刷、紙とインクについて

【希望するゲストなど】

- ・青森、八戸に関連した本の作家（森沢明夫、木村友祐等）（同様意見 他1件）
- ・林修（予備校講師）（同様意見 他1件）
- ・浅田政志（写真家）
- ・工藤ノリコ（絵本作家）
- ・安野光雅（画家、絵本作家）
- ・荒木飛呂彦（漫画家）
- ・ひすいこたろう（作家）

Q8 今後もブックセンターに来たいと感じましたか？

ぜひ来たい	63	45.0%
機会があれば来たい	42	30.0%
あまり来たいと思わない	0	0.0%
来ない	0	0.0%
未記入	35	25.0%
合計	140	100.0%

Q9 今後、ブックセンターにどのようなことを望みますか？

- ・長期継続を望む。(同様意見 他38件)
- ・同様の活動が他地域にも広がってほしい。(同様意見 他7件)
- ・PR、宣伝にもっと力を入れた方が良い。(同様意見 他5件)
- ・本を増やして欲しい。(同様意見 他3件)
- ・ドリンクメニューを増やして欲しい。(同様意見 他3件)
- ・地域や各種施設との連携を続けて欲しい。(同様意見 他2件)
- ・読書席を増やして欲しい。(同様意見 他2件)
- ・さらなる読書の活性化(同様意見 他2件)
- ・若者が気軽に立ち寄るきっかけができれば。(同様意見 他1件)
- ・ひとりになれる読書席が欲しい。(同様意見 他1件)
- ・本の検索が出来る機能があると良い。(同様意見 他1件)
- ・ドリンクが高い(同様意見他1件)
- ・他市町村とも連携し、県内全体の読書を活性化してほしい(同様意見 他1件)
- ・哲学のコーナーを続けて欲しい。
- ・執筆や出版に関する支援を続けて欲しい。
- ・ホームページやSNSで発信し続けてほしい。
- ・入口が分かりづらい
- ・専用駐車場もしくは無料駐車券を導入して欲しい。
- ・過去のイベントに参加できなかった人も楽しめる仕組みがあれば良い。
- ・特産品を使ったスイーツ
- ・勉強をするスペースがほしい
- ・コーヒーを飲めるなら紅茶もおいてほしい
- ・新聞広告等で話題となっている本を置いてほしい
- ・もう少しマニアックな本があった方が面白い
- ・このままゆっくりできる所であってほしい
- ・カンヅメブース出身の作家さんが出たら素敵だと思う。
- ・わくわくを刺激するような企画を続けてほしい
- ・街中に人が集まる場所の定番となってほしい
- ・子どもの本を作ってほしい。
- ・ハンモックを増やしてほしい
- ・無料で飲める水などを置いてほしい。
- ・市が書籍販売という行為を通してソフト面でのまちづくり・文化振興をする新モデルを構築して欲しい。
- ・開館時間を早めてほしい。
- ・もう少し遅くまで開館してほしい。

Q10 周辺施設で他に立ち寄る場所がありますか？(複数回答あり)

はっち	115	25.1%
図書館	15	3.3%
マチニワ	74	16.2%
市役所	13	2.8%
小売店(百貨店、コンビニ等)	73	15.9%
飲食店	84	18.3%
サービス店(理美容等)	1	0.2%
映画・娯楽施設	18	3.9%
その他	23	5.0%
立ち寄り場所なし	14	3.1%
未記入	28	6.1%
合計	458	100.0%

Q11 その他意見等

- ・落ち着いた雰囲気、居心地が良い。（同様意見 他17件）
- ・館内ツアーがあるのが良い。（同様意見 他8件）
- ・ずっと行きたいと思っていてやっと来られた。自分の住む近所にもこんな場所がほしい。（同様意見 他8件）
- ・コーヒーがおいしかった。（同様意見 他3件）
- ・老若男女問わず、本好きの人が気軽に立ち寄れる場となって欲しい。（同様意見 他2件）
- ・小中高校との連携が必要と思う。（同様意見 他1件）
- ・本好きには大変良い場である。（同様意見 他1件）
- ・新刊が少ない印象を受けた。（同様意見 他1件）
- ・高所の本が取りにくい、取れるように踏み台を増やして欲しい。（同様意見他1件）
- ・ドリンクの値段が高い。（同様意見 他1件）
- ・今後も、知的好奇心をくすぐる本を紹介して欲しい。
- ・イスに腰掛けて本を読めるところが良い。
- ・企画事業の種類が多くて良い。
- ・八戸出身で県外在住だが、はっちやブックセンターは誇りに思うし、地元でも関心が高い。
- ・「ブックデザイナーの仕様書展」は、あの狭いスペースに見所がぎっしりつまっていて大変よかった。
- ・県内外の商店等、いろいろなところにブックサテライトを増やしてほしい。
- ・平内の友人が本屋がなくて困っているの、そちらでも何かあれば...
- ・八戸の文化度の高さに感心した。
- ・図書館とも普通の書店とも異なる施設でとても面白いと思う。
- ・購入だけでなく、有料でもいいから借りられるのもっといいと思う。
- ・公共事業であれば、その効果・成果の測定が重要に思う。結果に興味があるので、ぜひ分析してほしい。
- ・アニメ・マンガをおいてほしい。
- ・市内の本を扱う場所とタイアップしながら盛り上げて行ってほしい。
- ・難解な本が多い印象を受けた。
- ・市民がもっと積極的に参加できるようなまちづくりを。
- ・首長が代わっても、長く運営できる体制を作る必要があるのではないか。
- ・何となく意識高い系の場所に感じた。
- ・読書会ルーム内の声が騒がしかった。
- ・図書館も充実させて欲しい。
- ・読書会ルームをもう少し入りやすくした方が良い。（テーブルや棚の配置）
- ・図書カードが使えるようになると良い。
- ・市の公式ツイッターやフェイスブックの開設など、ネット社会にあわせた宣伝が大事。
- ・ブックセンターの存在をもっと宣伝できないだろうかと思っている。